

平安京右京六条一坊五町

— 現地説明会資料 —

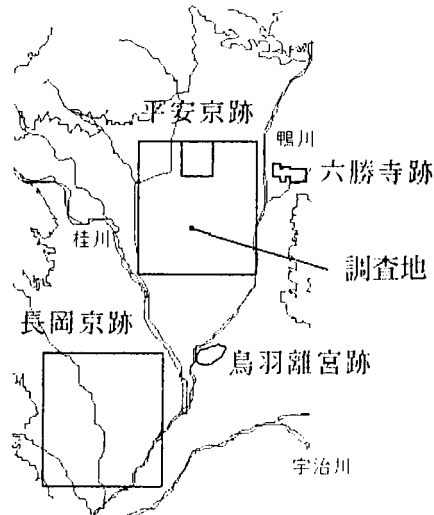
1988.3.21

財団法人京都市埋蔵文化財研究所

1 はじめに

調査地は、京都市下京区中堂寺南町（株大阪瓦斯京都製造所跡地）に所在し、京都リサーチパーク（株）から委託を受け、昭和62年9月17日から現在に至るまで、6次にわたって計9900㎡を調査している。

この所は平安京右京六条一坊五・六町にあたる。北に楊梅小路、南に六条大路、東に西坊城小路、西に皇嘉門大路が通る。現在までのところ六町の一部及び五町の区画内の6割弱を調査したことになる。この両町については明確な文献史料は見あたらない。

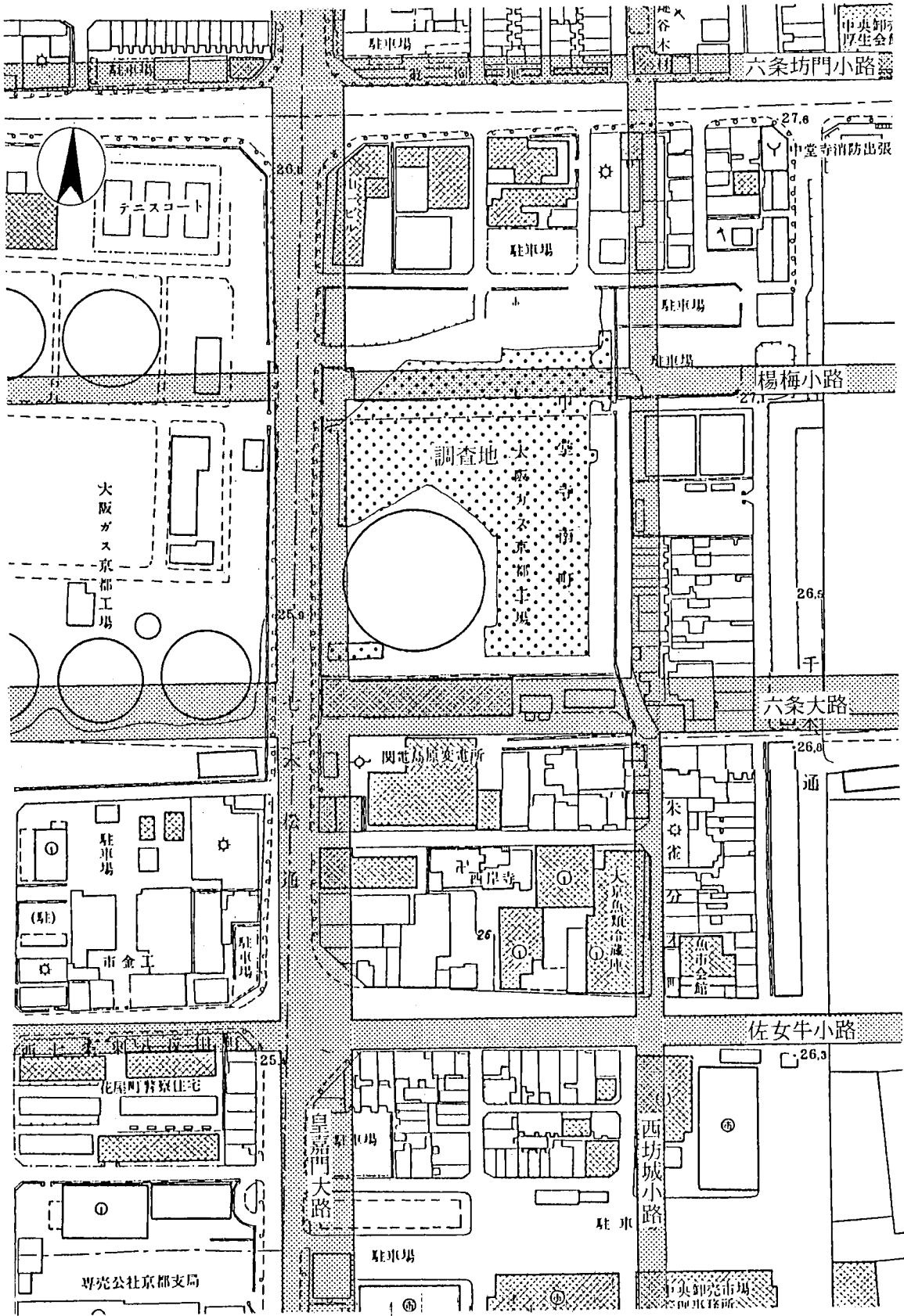


2 遺構の概要と調査成果

1) 縄文・弥生・古墳時代 調査地の北西側で2箇所¹⁾の湿地を検出した。このうち南側のものは、少なくとも長さ32m、幅13m、深さ約1mあり、埋土から縄文土器が出土している。北側の湿地は長さ60m以上、幅20m以上、深さ約0.8mで、縄文・弥生土器を含む河川跡と思われる砂礫層上に立地している。また南の肩部では古墳時代前・後期の遺物が出土している。これらの湿地の上部からは平安時代前期の遺物が出土しており、少なくともこの時期には埋まったものと推定される。

2) 平安時代前期 六条一坊五町では、この時期の建物に属する建物、廊、柵、井戸の他、土壇や溝を検出している。各々の建物は第1表に示した。ここでは全体の要点を概述する。

① 五町では柵27付近を中心に北と南で建物配置の様相が異なる。柵27の北では、建物の重複は少なく、相互の柱筋を合わせるなど規則的な配置が認められる。



調査地周辺の条坊復原図 (1:2,500)

② 柵27より南では東西棟を中心にこれに取り付く廊・柵、南北棟が重複する。このうち最も整然とした配置を示すのは建物11・14・16・22、廊17・19で、これらは平安貴族の代表的な邸宅である「寝殿造り」の配置に似ている。

③ 上記の建物群より新しい建物12・15、柵18・20なども先行する配置を踏襲すると考えられる。

④ これらの建物は南北線上に配置され、特に建物4・11・14は、その中心を合わせている。その南北中心線は「四行八門」の宅地割とは一致せず、東1/3付近をとっている。

⑤ 建物14より古い建物13は、建物4と同規模で同一線上に並び、最初はこの身舎のみの東西棟が配置され、これを増築するかたちで廂を付けた形式に展開する。これは寝殿造りの構成をもつ。

⑥ 井戸は3基検出している。E-5とS-13は円形縦板組み、U-58は方形横板組みの木枠をもつ。S-13、U-58では9世紀前半、E-5では9世紀後半の遺物が出土している。

⑦ 条坊関係遺構では皇嘉門大路の東側溝と楊梅小路の南側溝を検出しているが、楊梅小路の北側溝は鎌倉時代の側溝と重なり、詳細は明かでない。

h) 平安後期～鎌倉時代 建物跡を中心に井戸、土壇、溝、楊梅小路北側溝などを検出している。以下、概略を記す。

① 建物跡は、合計8箇所柱穴の集中する箇所を確認したが、建物としては明確に復原できず、ここでは「建物群」とした。

② 井戸は8基検出した。掘り形内に方形の木枠をもつもの(O-8、A-36、B-82、C-68、R-59)や素掘りとみられるもの(C-7、J-18、J-40)などがある。R-59の掘り形内からは刃の部分を着装した鋤が完形で出土している。

③ 土壇では方形を呈するJ-22・42、長方形で規模の大きなN-11など性格の不明確なものがみられる。

④ 東西溝F-40、南北溝A-9などは建物群を区画する性格の溝と考えられる。

⑤ 楊梅小路の北側溝は長さ100m近くにわたり検出している。湿地の上部を開削しており、底は西側が低い。しかし南側溝は該当位置では認められなかった。

第1表 平安時代主要建物一覧表

名称	桁・柱間		梁・柱間		廂	備考
建物1	6間	2.4 m	2間	2.4 m	東・西廂 2.7 m	南北棟。東側は建物2・23の東側と揃う。身舎中央を仕切る。
建物2	3間	1.8 m	2間	2.4 m	なし	南北棟。
建物3	3間	1.65 m	2間か?			南北棟。
建物4	6間	2.4 m	2間	2.4 m	なし	東西棟。中心線上に位置する。南側は建物3の北側と重複する。
建物5	3間以上	2.1 m	2間	2.4 m	南・北廂 2.8 m	東西棟。
建物6	6間	2.4 m	2間	2.4 m	なし	東西棟。東側は建物7・8の東側と揃う。身舎中央を仕切る。
建物7	5間	2.1 m	2間	2.4 m	東廂 2.8 m	南北棟。
建物8	5間	2.4 m	2間	2.4 m	東廂 2.7 m	南北棟。
建物9	3間以上	2.4 m	2間	2.4 m	なし	東西棟。土壇N-11の底で検出。
建物11	8間	2.4 m	2間	2.4 m	北廂 3.0 m 南廂古 3.0 m 南廂新 3.6 m	東西棟。中心線上に位置する。身舎の北1間内に帳台(東西8間、南北1間)がある。身舎東1間を仕切る。
建物12	5間	2.6 m	2間	2.2 m	南廂 3.3 m	東西棟。建物11と重複し、これより新しい。
建物13	6間	2.4 m	2間	2.4 m	なし	東西棟。中心線上に位置し、建物14・15と重複する。
建物14	5間	2.7 m	2間	2.7 m	東・西・南・北の廂 3.6 m	東西棟。中心線上に位置する。身舎東1間を仕切る。建物13より新しく、建物15より古い。
建物15	3間以上	2.4 m	2間	2.4 m	北廂 3.0 m	東西棟。桁行5間か?。
建物16	6間	2.4 m	2間	2.4 m	西廂 3.0 m 南廂 2.4 m	南北棟。身舎南1間を仕切る。
廊 17	東西3間	1.9 m	南北1間	2.4 m		東西廊。建物11と建物16をつなぐ。
柵 18	東西5間	2.1 m				柵20とつながるが、建物の可能性あり。
廊 19	南北6間	2.3 m	東西1間	2.4 m		南北廊。建物16と建物22をつなぐ。
柵 20	南北13間	2.4 m				南北柵。
柵 21	南北3間	2.0 m	東西3間	2.4 m		L型の柵。
建物22	南北2間以上 北 2.6 m 南 2.4 m		東西3間以上 2.4 m			北1間は廂か?。
建物23	南北2間以上	2.4 m			東・南廂 3.0 m	身舎柱間2.4 m。建物規模不明。
建物24	南北	2.4 m				建物規模不明。
廊 25	東西2間以上	2.4 m	1間	3.6 m		建物14の北廂にとりつく。
柵 26	東西2間以上	1.9 m				建物11にとりつく。
柵 27	東西4間	3.4 m				

ニ) 江戸時代 地山の黄褐色砂泥層を採集する目的で掘られた土取り穴が多数掘られている。

- ① これらは砂泥層の堆積する範囲で密に分布している。
- ② 土壌の形状や規模は類似するものが多く、調査地の中央部では東西方向、北側では南北方向に細長いものが連続する。

3 遺物

調査では縄文、弥生、古墳、平安、鎌倉、江戸時代の遺物が約300箱出土している。遺物の内容は第2表に示した。量的には土器類が最も多いが、次いで瓦類がみられる。この他に縄文・弥生時代の石器、平安・鎌倉時代の木器、金属製品も出土している。

平安時代以前では縄文土器、弥生土器、古墳時代の土師器、須恵器があり、近辺に集落の存在を想定させる資料として重要である。

平安時代前期では、井戸U-58、E-5、S-13、楊梅小路南側溝、土壙O-19などから良好な土器群が出土している。しかし瓦の出土量は全体に少ない。

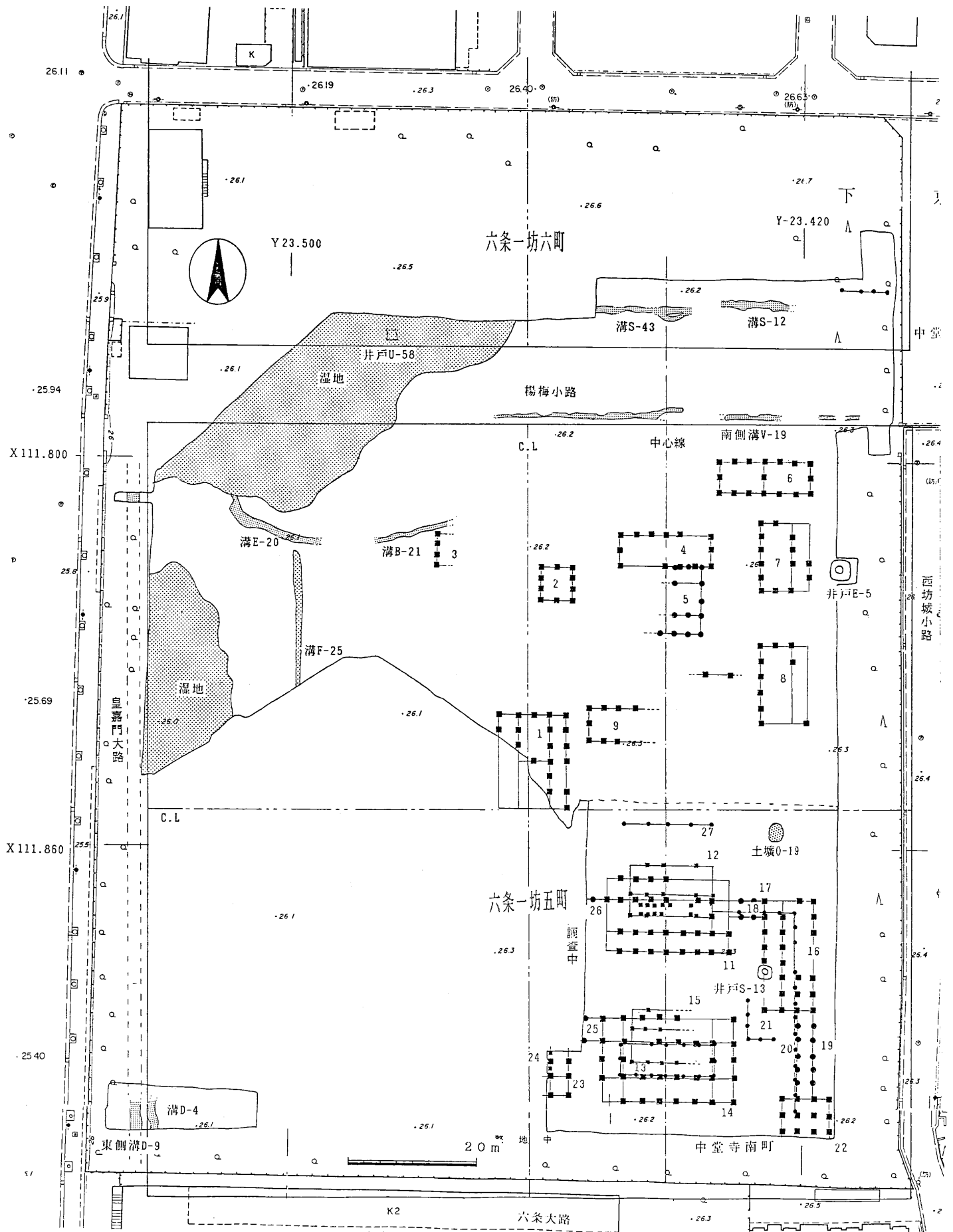
平安後期～鎌倉時代では、井戸、土壙、楊梅小路北側溝などから土器、木器が多数出土している。

4 まとめ

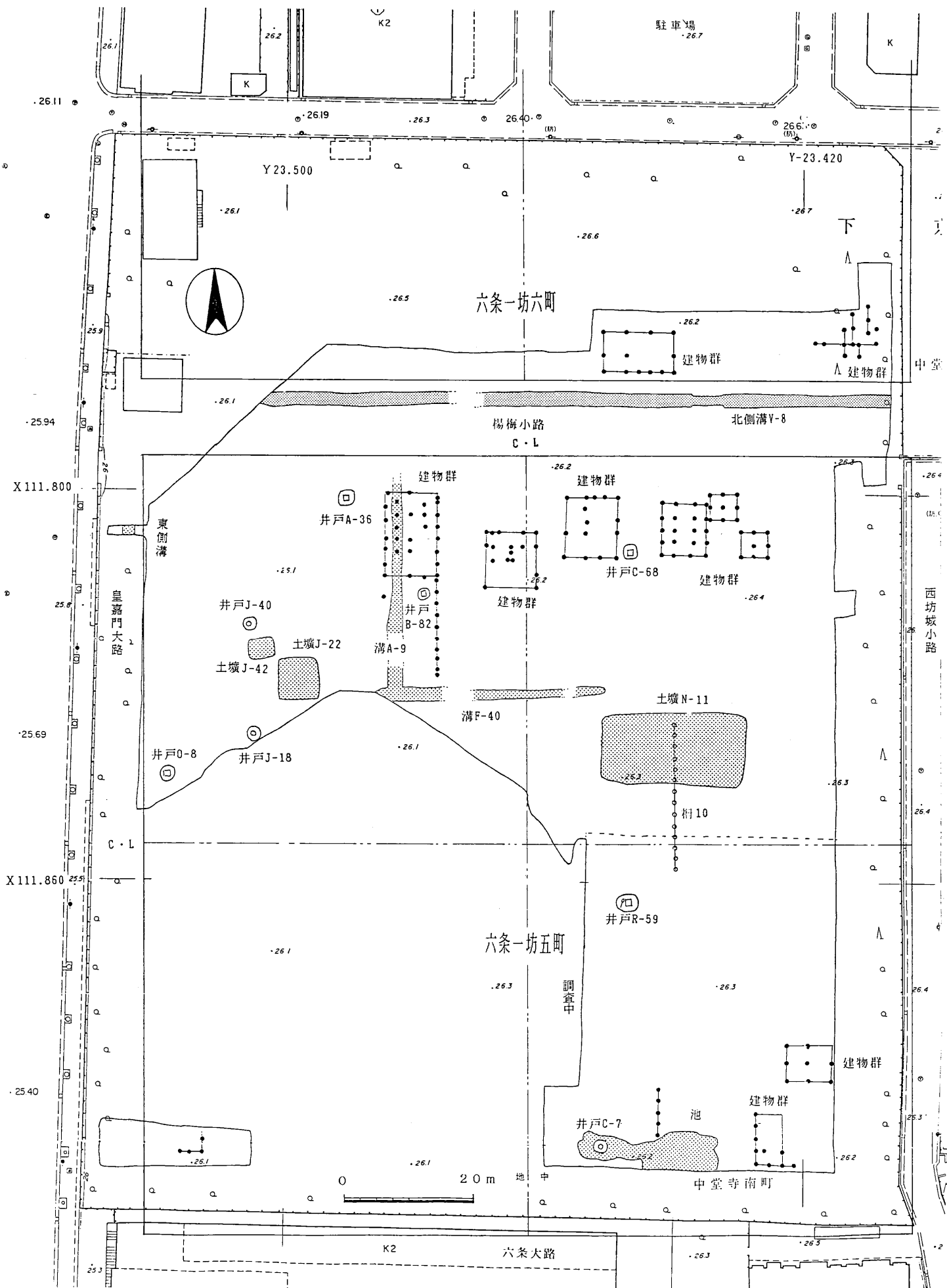
平安京跡の発掘調査は、今日まで数百件のにのぼる。しかしながら、数百平方メートル程度の規模の調査が大半で、平安京跡、特にその条坊区画の最小単位である「町」の実態を明らかにするような調査は、寝殿造りの原形と見られる遺構を発見した山城高校校地の調査（京都府教育委員会1980・1981年調査）をあげうるのみである。今回は、平安京右京六条一坊五町の区画内の6割弱を調査し、上述のような遺構・遺物の成果を得た。特に平安時代前期の寝殿造りと考える遺構は、今日まで絵巻物などの史料をもとに復原されていた姿を初めて具体的に明らかにした点で重要である。

第2表 出土遺物一覧表

時代	内 容	主な遺構
縄文時代	縄文土器（後・晩期）、石器（磨製石斧、石棒、石鏃、叩き石）	湿地
弥生時代	弥生土器（前期）、石器（石包丁）	湿地
古墳時代	古式土師器（甕、壺、器台） 須恵器（蓋杯） 木器（鋤）	湿地
平安時代 (前期)	土師器（杯、椀、皿、高杯、甕、壺） 須恵器（蓋杯、甕、壺、硯） 緑釉陶器（椀、皿、耳杯、壺、火舎） 灰釉陶器（椀、皿、平瓶、壺、蓋） 輸入陶磁器（越州窯青磁椀、白磁椀） 土馬、紡錘車 軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦 木器（下駄、曲物） 錢貨（神功開宝、隆平永宝、富寿神宝） 石帯	湿地 井戸 建物 楊梅小路南側溝 土壇
平安時代 (後期)～ 鎌倉時代	土師器（皿） 須恵器（甕） 瓦器（椀、皿、鍋、三足付羽釜） 輸入陶磁器（磁州窯壺、水注、水注の蓋） 木器（下駄、木球、刀子の柄、鋤、櫛、漆椀）	井戸 楊梅小路北側溝 池 方形土壇 建物



平安時代前期遺構配置模式図 (1:600)



平安後期～鎌倉時代遺構配置模式図 (1:600)



X-111.860

Y-23.450

中心線

Y-23.420

柵27

建物12

建物11

柵26

廊17

建物16

柵18

井戸S-13

廊25

建物15

建物14

柵21

建物24

建物13

柵20

廊19

X-111.900

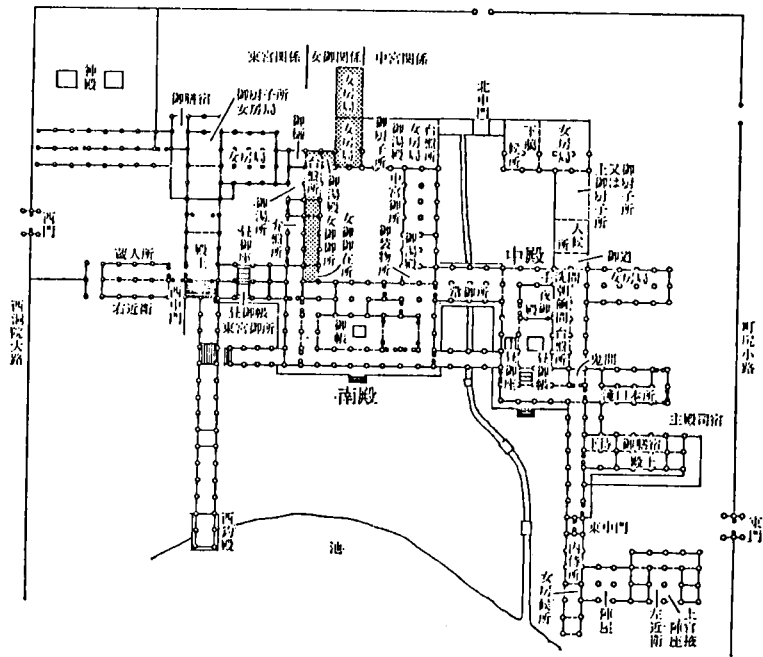
建物23

建物22

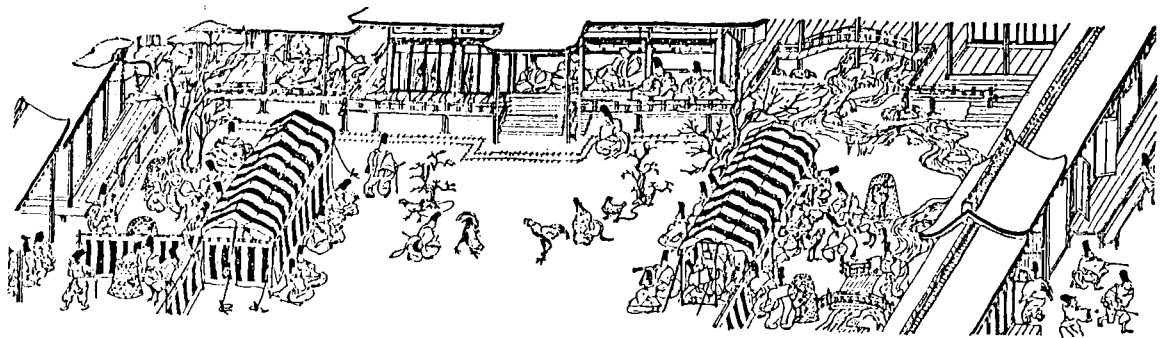
0 15m

東南地区平安時代前期遺構配置図(1:300)

寝殿造りの参考資料



東三条殿の復原図（玉腰芳夫『古代日本のすまい』より）



「年中行事絵巻」にみる堂上家（平井 聖『日本住宅の歴史』より）



「年中行事絵巻」にみる法住寺殿（平井 聖『日本住宅の歴史』より）